

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700163		
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	吉野川市鴨島町内原		
自己評価作成日	平成26年6月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成26年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の理解や協力を得ることで、地元の行事にも出かけることが出来ている。4つのユニットが平面上にある為、様々な面で協力しあっている。また、医療機関が併設している為、日曜日や祝・祭日夜間においても、医師や看護師と連携を図り、医療面での支援も手厚く行っている。介護計画に関する話し合いには家族参加率が100%である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、のどかな環境のなかで穏やかに過ごしている。4つのユニットの往来があり、開放的な生活空間が整備されている。朝の清掃等、日常生活のなかでも家族の協力があり、家族参加型の事業所となっている。また事業所は、利用者の得意なことを引き出す場面づくりに取り組んでいる。共用空間では、制作好きの利用者の手作り作品を展示したり、歌を楽しんだりしている。また、食後の片づけなどの役割を担ってもらい、張り合いや喜びを感じることで心身の力の維持に繋がっている。医療面では医療機関が併設されているため、利用者や家族の安心に繋がっている。管理者は、積極的にコミュニケーションを図り、職員の自主性を引き出すことに努め、全職員は、研修やミーティングを重ね、さらなるサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務開始時に運営理念・介護理念を唱和し、意識づけを行っている。理念についての勉強会を行った事により意図を理解し、日々のケアに繋げる事が出来ている。	全職員は、理念にある地域密着型サービスの意義や役割を共有し、日ごろのケアの原点としている。さらに、理念を掘り下げて全職員で話しあい、利用者の暮らしを支えるケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての日常的な交流は無いが、近隣の神社やスーパー等買い物に行くことで交流を図っている。	利用者や職員は、日頃から買い物や散歩に出かけ、近隣の方と挨拶を交わしている。地域ボランティアの来訪もあり、交流が少しずつ広がってきている。家族から、地域の情報提供等も寄せられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会を通して、認知症の人の理解を深めてもらったり支援の方法を依頼、提案している。また、人材育成の貢献として認知症サポーター養成研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現状の報告と共に意見ももらうようにしている。出た意見を全体の議題とし早急に対応出来るようにしたり運営推進会議録を作成し、掲示・ファイリングする事により周知徹底しサービス向上に繋げている。	年6回、運営推進会議を開催している。事業所の報告とともに、活発な意見交換の場となっており、新たに地元消防団員の参加も決定した。出された意見や課題等は、職員間で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の参加依頼や毎月の入居状況等の報告を行っている。また、吉野川市・地域密着型サービス事業所連絡協議会へも積極的に参加し、情報交換を行い連携体制を構築している。	職員は日頃から電話や窓口に出向くなどして、市担当者や情報交換や困難事例の相談を行っている。また、地域密着型サービス事業所連絡協議会にも積極的に参加したり、市担当者に事業所内の会議に出席してもらうなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し威圧のない空間作りをしている。	全職員は、法人の研修会や事業所独自の勉強会に参加し、身体拘束の内容と弊害について理解を深めている。言葉のかけ方や利用者を長時間、椅子に座りっぱなしにしないなど、具体的なケアについても職員間で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止ネットワーク協議会に参加し、虐待への理解を深めている。又、全スタッフで虐待についての勉強会を行ったり、新聞記事をその都度、議題として話し合い意識づけする事で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や外部で行われる研修に積極的に参加し、全職員が内容を把握出来るよう、勉強会を行っている。また、相談があった場合には対応出来るよう体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明している。利用料金や起こり得るリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。また、介護報酬の改定等に伴い利用料金の変更がある場合には家族会での説明と共に個別に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、運営推進会議時等に意見や要望等の把握に努めている。必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、全職員が周知出来る様努めている。また、意見箱を設置すると共に相談窓口等の説明を契約時に伝えている。	職員は日頃から、利用者や家族が意見や要望を話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議への家族の参加もあり、外部へ意見を表出する機会も設けている。出された意見はミーティングで話しあい、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やリーダー(サブ)会、全体会等で意見や提案を聞く機会や目標管理シート並びに達成状況の評価等し改善点や要望点を提案する機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。	管理者は、全体会や日頃のミーティングなどで、職員の意見や提案に耳を傾けている。また、日々のケアにおいても職員が得意分野を担うよう配慮するなど、職員の自主性を伸ばす工夫もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い職員が向上心を持って働けるよう、働きかけている。また、評価者との面談による指導、助言を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間で計画されている研修への参加や外部研修などを積極的に取り入れ、知識や技術向上の為の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行い、交流を図っている。又、3か月に1回関連施設と合同で事例検討通して勉強会を行い、会議録を作成し、全職員に周知しケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・に見学に来たいいただいたり面談を行いゆっくりと話を聞かせてもらうことで、生活状況の把握と共に要望や希望を聞くことができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際に、経緯や状況をゆっくりと聞き困っている事や不安に感じていることを見極めていく。又、サービス利用開始前や至らない場合でも不安な時などには気軽に相談・連絡して頂けるよう声をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、併設病院の説明や、本人様・家族様の想い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら可能な限り柔軟な対応を行い、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員間で共有し、それぞれの生活の経験基にした知恵を教えてもらうなどし、共に支えあえる関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子や健康状態などを月次報告にて送付している。また、家族様面会時には近況の報告を行い共有する事で協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に行っている利用者や、知人や友人等の面会もある。交流が継続できるよう気軽に来所してもらえぬ雰囲気作りを心掛けている。	事業所は、利用者の馴染みの場所への外出を支援している。また、知人や友人の来訪を歓迎したり、編み物や将棋等、趣味や暮らし方の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファの位置や食事の席を工夫する事で、皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士が話をして過ごされている。又、心身の状態や気分によって感情の変化が著しい方もいる為、注意深く見守りトラブル防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院・施設への入院時には、馴染みの職員が機会を作って会いに行ったり気軽に遊びに来てもらえる様に関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情などから本人が何を伝えようとしているか、その意思を推し測ったり、解決困難な事柄には家族様の協力・話し合いの場を持つようにしている。	職員は、利用者との日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。思いの表出が困難な利用者には、表情や行動から真意を考え、家族と相談のうえ本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時(入居前)にフェイスシート、アセスメントシートを活用し、本人様・家族様から生活歴等の情報を収集している。また、友人や知人からの新たな情報を得た場合にもフェイスシートに記入している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人希望のニーズにそった日課計画表を作成し、心身状態や残存能力、生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様参加のカンファレンスを開催し意見交換の場とし、希望・要望を反映した本人本位の介護計画を作成している。	利用者や家族の希望をもとに、全関係者で話し合い、介護計画を作成している。職員は、利用者との日常会話を記録することで、暮らし方の希望を介護計画へ反映させている。段階に応じて随時見直しも行い、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を反映した個別記録となっている為、日々の様子や言葉等を記録しモニタリングやアセスメント、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出希望や予定外の行事などでも、希望が聞かれた場合には相談しながら計画を立て対応している。また、内科以外の診察希望時や必要時などには迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には市職員や地元の消防団員・民生委員の方が参加してくれている。地域の阿波踊りや五九郎祭り等の行事に参加し交流を図っている。又近隣のコンビニ等の周辺機関とも協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関での診察時には、職員が付き添いをして。外部の他科受診される時には、日々の状態を口頭や連絡箋にて手渡したり、必要に応じて通院介助を行っている。	事業所は、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医等の受診は、家族の付き添いを基本としているが、状況によっては職員が同行することもある。歯科の往診や、協力医療機関との連携による緊急時の体制もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	のぞみ連絡箋を作成・活用し体調や些細な表情の変化などを報告・相談し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供すると共に、家族とも回復状況・情報等を交換しながら、対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、契約時に説明し同意を得ている。また、入居者様・家族様からの意向はアセスメントに記載し意向確認の為に話し合いを医師・看護師・職員とが連携を図り、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	事業所は、契約時に重度化した場合の対応や看取りに対する方針を説明している。利用者の状況変化に応じて、そのつど本人や家族の意向を確認し、関係者が連携して支援に取り組んでいる。また、終末期ケアの勉強会も重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院内での勉強会や、外部での緊急時対応の研修に参加し実施力の向上に努めている。また、施設内でも勉強会を行い全ての職員で初期対応を想定した訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署並びに併設施設の協力を得て、消火器の使い方や利用者様と共に避難訓練、避難経路の確認、施設内での地震発生を想定したの訓練も実施している。その他、地元消防団員に運営推進会議に参加してもらい協力体制をとっている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、併設施設との協力体制も構築している。また、事業所独自に災害想定にあわせた具体的な訓練も実施している。水害時には、事業所が避難者の受け入れ場所となることも想定し、準備を進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務について十分理解し責任ある取り扱いと管理を徹底している。又本人のパーソナリティ・プライバシーを最大限に尊重し、自己決定しやすい言葉かけ、対応を心掛けている。	職員は利用者と向きあい、尊厳をもった言葉かけや対応に努めている。名前は姓で呼ぶことを基本としているが、本人の希望により、活躍していた頃の愛称で呼ぶこともある。介助や誘導の際は、さりげない声かけや対応でプライバシー確保に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の難しい方には簡単な選択肢を用意し自己決定が出来るよう支援している。又自分の気持ちや思いを伝える事が可能な入居者様には個別にてゆっくりと話を傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間など、本人に相談しながら行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には本人様の希望を取り入れたコーディネートを中心している。毎朝鏡の前で整容や整髪を行い身だしなみを整えている。また、個別に好みの化粧品を持参し使用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に買い物に出掛け嗜好品を買い、食事時に飲食を楽しまれている。又職員と入居者様が一緒に食事する事により、家庭的雰囲気作りも大切にしている。	事業所は、とろみ食から普通食まで一人ひとりにあわせた食事形態を用意し、時間がかかっても自分で食べる満足感を大切にしている。利用者と職員は、同じ食卓を囲み、さりげない声かけや介助をしつつ、和やかな雰囲気の中、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族様と連携を図り、本人様の好みの物（果物やジュースなど）を持参してもらったり形状を工夫して提供する事で食事水分量の安定に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、洗面所にて行っている。夜間は義歯は預かり入れ歯洗浄機を使用し、個人のケースにて保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や言動等により、一人一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を勧めている。また、失敗を少なく出来るよう時間を見て声かけ誘導も行っている。	職員は一人ひとりの排泄状態を把握し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。チェックシートを活用し、さりげない声かけや誘導に努めている。体操や乳製品の利用等、スムーズな排泄への工夫も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や便チェック表を用いて1人1人の排泄パターンを把握している。毎日の体操や水分補給を十分に行い便秘予防に取り組んでいる。又、緩下剤の使用指示がある方には、医療との連携を強化している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や順番を決めず本人と相談しながら行うようにしている。又拒否のある方には入居者様同士で誘い合せて入浴できるよう、さりげない声かけを行う事で一緒に入ることもあり、話をしながら楽しそうに入られている。	事業所は、利用者の希望にそった入浴を支援しており、毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを工夫し、週に2回は入浴を楽しめるよう支援している。また、同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に合わせて居室での適度な臥床を勧めたり、日中の活動を取り入れて生活リズムの安定に努めている。又夜間眠れず起きている方にはゆっくりと話を聞くなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を保管し、新しく処方されたものや変更があった際には申し送りを密に行い把握している。また、誤薬が無いよう薬袋に朝・昼・夕と色分けした線を引いている。日々の体調観察も注意して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様と相談しながらラジオ体操・輪投げやボール運動などのレクリエーションやスタッフと共に壁画作りや将棋など本人の好みに合わせた活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方を含め、希望に合わせて夕食や花観賞・コンビニ・100円ショップ等に出掛けている。又季節に応じた行楽行事には家族様の協力を求め行っている。	利用者と職員は、近隣への散歩や買い物等、日常的に外出している。墓参りや特別な場所への外出も、家族の協力を得て支援している。また、花見等、季節ごとの外出も家族と一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			2ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の理解・協力を得て、少額のお金を持っている方もいる。個々に応じた金銭を家族と相談の上預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様と昔からの馴染みのある方との手紙のやり取りの支援や家族様からの電話があった場合には取り次ぎ対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と職員が協力し合いホールに季節感のある壁画を折り紙等で一緒に作り飾りつけを行っている。	共用空間は、明るくゆったりと過ごせる環境整備を行っている。利用者はソファでくつろいだり、洗濯物をたたんだり、歌を披露したりと思いいい過ごしている。壁面には利用者と職員の手作りの作品が飾られ、家庭的で季節感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に座れるソファとなっている為、一人でくつろがれたり、仲の良い入居者様が来た際には話をしたりと憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や馴染みの家具・仏壇などを置き、本人らしい空間を作られている。又写真や作品などを部屋に飾ることで本人と相談しながら明るい部屋作りをしている。	事業所は家族の協力も得て、居室が入居前の生活空間の延長となるよう配慮している。使い慣れた家具や仏壇を置き、写真や手作りの作品を飾るなど、一人ひとりにとって居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて、トイレやお風呂場の表示をしている。また、台所を使用する方もいる為マット等をのけ安全に活動できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務開始時に運営理念・介護理念を唱和し、意識づけを行っている。理念についての勉強会を行った事により意図を理解し、日々のケアに繋げる事が出来ている。	業務開始時に運営理念・介護理念を唱和し、意識づけを行っている。理念についての勉強会を行った事により意図を理解し、日々のケアに繋げる事が出来ている。	業務開始時に運営理念・介護理念を唱和し、意識づけを行っている。理念についての勉強会を行った事により意図を理解し、日々のケアに繋げる事が出来ている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての日常的な交流は無いが、近隣の神社やスーパー等買い物に行くことで交流を図っている。	地域の一員としての日常的な交流は無いが、近隣の神社やスーパー等買い物に行くことで交流を図っている。	地域の一員としての日常的な交流は無いが、近隣の神社やスーパー等買い物に行くことで交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会を通して、認知症の人の理解を深めてもらったり支援の方法を依頼、提案している。また、人材育成の貢献として認知症サポーター養成研修の受け入れも行っている。	家族会を通して、認知症の人の理解を深めてもらったり支援の方法を依頼、提案している。また、人材育成の貢献として認知症サポーター養成研修の受け入れも行っている。	家族会を通して、認知症の人の理解を深めてもらったり支援の方法を依頼、提案している。また、人材育成の貢献として認知症サポーター養成研修の受け入れも行っている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現状の報告と共に意見をもらうようにしている。出た意見を全体の議題とし早急に対応出来るようにしたり運営推進会議録を作成し、掲示・ファイリングする事により周知徹底しサービス向上に繋げている。	2ヶ月に1回開催し、現状の報告と共に意見をもらうようにしている。出た意見を全体の議題とし早急に対応出来るようにしたり運営推進会議録を作成し、掲示・ファイリングする事により周知徹底しサービス向上に繋げている。	2ヶ月に1回開催し、現状の報告と共に意見をもらうようにしている。出た意見を全体の議題とし早急に対応出来るようにしたり運営推進会議録を作成し、掲示・ファイリングする事により周知徹底しサービス向上に繋げている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会の参加依頼や毎月の入居状況等の報告を行っている。また、吉野川市・地域密着型サービス事業所連絡協議会へも積極的に参加し、情報交換を行い連携体制を構築している。	運営推進委員会の参加依頼や毎月の入居状況等の報告を行っている。また、吉野川市・地域密着型サービス事業所連絡協議会へも積極的に参加し、情報交換を行い連携体制を構築している。	運営推進委員会の参加依頼や毎月の入居状況等の報告を行っている。また、吉野川市・地域密着型サービス事業所連絡協議会へも積極的に参加し、情報交換を行い連携体制を構築している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し威圧のない空間作りをしている。	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し威圧のない空間作りをしている。	身体拘束に関する勉強会を行い、身体拘束はしないという認識を全職員が持っている。しかし、ハード面上、玄関を施錠しているが、時間的に開放し威圧のない空間作りをしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止ネットワーク協議会に参加し、虐待への理解を深めている。又、全スタッフで虐待についての勉強会を行ったり、新聞記事をその都度、議題として話し合い意識づけする事で虐待防止に努めている。	管理者は高齢者虐待防止ネットワーク協議会に参加し、虐待への理解を深めている。又、全スタッフで虐待についての勉強会を行ったり、新聞記事をその都度、議題として話し合い意識づけする事で虐待防止に努めている。	管理者は高齢者虐待防止ネットワーク協議会に参加し、虐待への理解を深めている。又、全スタッフで虐待についての勉強会を行ったり、新聞記事をその都度、議題として話し合い意識づけする事で虐待防止に努めている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や外部で行われる研修に積極的に参加し、全職員が内容を把握出来るよう、勉強会を行っている。また、相談があった場合には対応出来るよう体制を整えている。	市や外部で行われる研修に積極的に参加し、全職員が内容を把握出来るよう、勉強会を行っている。また、相談があった場合には対応出来るよう体制を整えている。	市や外部で行われる研修に積極的に参加し、全職員が内容を把握出来るよう、勉強会を行っている。また、相談があった場合には対応出来るよう体制を整えている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明している。利用料金や起こり得るリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。また、介護報酬の改定等に伴い利用料金の変更がある場合には家族会での説明と共に個別に説明を行い、同意を得ている。	丁寧に説明している。利用料金や起こり得るリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。また、介護報酬の改定等に伴い利用料金の変更がある場合には家族会での説明と共に個別に説明を行い、同意を得ている。	丁寧に説明している。利用料金や起こり得るリスク、重度化についての対応方針、医療連携体制等については詳しく説明している。また、介護報酬の改定等に伴い利用料金の変更がある場合には家族会での説明と共に個別に説明を行い、同意を得ている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、運営推進会議時等に意見や要望等の把握に努めている。必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、全職員が周知出来る様努めている。また、意見箱を設置すると共に相談窓口等の説明を契約時に伝えている。	家族の面会時や、運営推進会議時等に意見や要望等の把握に努めている。必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、全職員が周知出来る様努めている。また、意見箱を設置すると共に相談窓口等の説明を契約時に伝えている。	家族の面会時や、運営推進会議時等に意見や要望等の把握に努めている。必要に応じてカンファレンスを行うと共に経過を記録し、全職員が周知出来る様努めている。また、意見箱を設置すると共に相談窓口等の説明を契約時に伝えている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やリーダー(サブ)会、全体会等で意見や提案を聞く機会や目標管理シート並びに達成状況の評価等し改善点や要望点を提案する機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。	個別面談やリーダー(サブ)会、全体会等で意見や提案を聞く機会や目標管理シート並びに達成状況の評価等し改善点や要望点を提案する機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。	個別面談やリーダー(サブ)会、全体会等で意見や提案を聞く機会や目標管理シート並びに達成状況の評価等し改善点や要望点を提案する機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い職員が向上心を持って働けるよう、働きかけている。また、評価者との面談による指導、助言を受けている。	年2回の人事考課を行い職員が向上心を持って働けるよう、働きかけている。また、評価者との面談による指導、助言を受けている。	年2回の人事考課を行い職員が向上心を持って働けるよう、働きかけている。また、評価者との面談による指導、助言を受けている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間で計画されている研修への参加や外部研修などを積極的に取り入れ、知識や技術向上の為の取り組みを行っている。	法人内で年間で計画されている研修への参加や外部研修などを積極的に取り入れ、知識や技術向上の為の取り組みを行っている。	法人内で年間で計画されている研修への参加や外部研修などを積極的に取り入れ、知識や技術向上の為の取り組みを行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行い、交流を図っている。又、3か月に1回関連施設と合同で事例検討通して勉強会を行い、会議録を作成し、全職員に周知しケアに活かしている。	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行い、交流を図っている。又、3か月に1回関連施設と合同で事例検討通して勉強会を行い、会議録を作成し、全職員に周知しケアに活かしている。	吉野川市グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行い、交流を図っている。又、3か月に1回関連施設と合同で事例検討通して勉強会を行い、会議録を作成し、全職員に周知しケアに活かしている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や見学などで生活状況を把握出来るように努めている。	事前に見学や相談、面談に行き希望などを聞く事が出来ている。	事前訪問や、見学に来てもらうことで、要望や困っていることなど希望を聞くことが出来ている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や面談時に家族様が求めているもの、これまでの経緯を尋ね、事業所としてどのように対応出来るか事前に話し合っている。	本人、家族様が求めている事を理解し事業所としての対応を説明し、信頼関係が保てるよう話し合っている。	事前訪問や見学に来てもらうことで、家族様の希望などを聞き、事業所としてどのような対応が出来るか事前に話し合っている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、併設病院の説明や、本人様・家族様の想い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら可能な限り柔軟な対応を行い、必要なサービスに繋げている。	相談時には、併設病院の説明や、本人様・家族様の想い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら可能な限り柔軟な対応を行い、必要なサービスに繋げている。	相談時には、併設病院の説明や、本人様・家族様の想い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案・相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら可能な限り柔軟な対応を行い、必要なサービスに繋げている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で互いに声を掛け合い、感謝の意を伝えたり『頑張っていていなよ』と励ましてくれる事もあったりと、声を掛け合う事で関係を築いている。	毎日の生活の中で、お互いに声を掛け合い活動に対する感謝の意を伝える事で関係を築いている。	話をすることで関わりを大切にしている。その人の想いを共感出来るようにし、共に支えあえる関係づくりに取り組んでいる。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態が分かるように、月次報告を送付したりご自身で手紙を書いてもらう等、関係が途切れないようにしている。	カンファレンスや家族会・行事への参加の機会を作り悩みや相談など、話せる環境を作る事で、共に本人を支える関係を作っている。	カンファレンスや、行事などへの参加を依頼し、参加してもらうことで家族や本人の想いを知り、その気持ちに寄り添えるように心がけている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人や自宅・近所の方が面会に来る事が増えてきており、気軽に来所してもらええる雰囲気作りを心掛けている。	入所後も以前利用していたデイサービスの利用者との交流が継続出来るように連携を図っている。また、行きつけの美容院、手紙や電話での連絡を取り持つなど、繋がりが継続出来るようにしている。	家族様との連携や協力を得、馴染みの人や場所との交流が保てるよう支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士が近くに座り、声を掛け合い会話がしやすいように椅子やソファなどの配置を工夫している。	皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で、共に役割活動をしたりする事で関係が上手く行く様に働きがけをしている。	ホールで過ごしやすいようホール内の家具の配置等を工夫し、入居者同士の交流が回りやすくなっている。又、自室で過ごす事が多い方にも他の入居者と一緒におやつや食事の声かけをする事で孤独感を感じないようにしている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方でも、気軽に遊びに来てもらえる様に関係性を大切にしている。また、馴染みの職員が機会を作って訪問などを行っている。	入院時には病室へ訪室したり、病院内で会った際には挨拶と共に近況の様子を伺っている。	サービスが終了し、在宅に帰られた方も、併設のサービス利用時には挨拶と共に近況の様子を伺い、関係を継続できるように努めている。また、家族からの相談にも乗っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や行動を観察し、想いや希望を引き出せるように心がけている。	日々の何気ない会話や、行動によって本人様の気持ちや意向を汲み取れるよう気を付けている。また、カンファレンスにて本人様の希望や意向を重視している。	日々の会話の中で、想いや意向を把握出来るよう努めている。また、カンファレンスにて本人様の希望や意向を尊重している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や入居前にフェイスシート等を活用して家族様、本人様に生活歴を聞き、把握に努めている。	入居前、入居時に本人様・家族様から情報収集を行いフェイスシート、アセスメントシートを作成し生活環境等の把握に努めている。	本人様や家族様から生活歴などの情報を収集し、フェイスシートを作成している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の日課計画表を作成すると共に、心身状態にも配慮出来るよう、日中夜の言動等を記録し申し送りを行っている。	本人様・家族様の希望のニーズに添った介護計画作成書・日課計画表を元に心身状態や残存能力の把握に努めている。	本人様希望のニーズにそった日課計画表を作成し、心身状態や残存能力、生活リズムの把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリングを用いて、本人様・家族様参加のカンファレンスを開催し要望を反映した介護計画を作成している。	モニタリング、アセスメントを用いて入居者様、家族様参加のカンファレンスを開催し、意見交換を行い要望を反映出来るようにしている。	モニタリングを作成し、3カ月に1回本人様や家族様の希望を介護計画に反映させている。入居者様の心身状態に応じて、随時介護計画を見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を反映した個別記録となっている。日々の様子や言葉等を記録しモニタリングやアセスメント、介護計画の見直しに活かしている。	介護計画書を反映した、個別記録となっている為、日々の様子や本人様の言葉を記録しモニタリングやアセスメント、介護計画の見直しに活かしている。	介護計画書を反映した個別記録に、介護計画にそった日々の様子を記録している。それに基づきモニタリングをし、介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊にも柔軟に対応している。又、本人様や家族様の状況に応じて通院・送迎など個々に対応している。	外出時の介護タクシー予約など、家族様に代わって行っている。また、急な外出や外泊にも柔軟に対応している。	本人様や家族様の希望にそって急な外出や外泊にも臨機応変に対応している。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	阿波踊り・五九郎祭り・菊人形等の地域行事に参加し、交流を図っている。又、運営推進会議に民生委員・地元の消防団員が参加してくれている。	運営推進会議に地元消防団員、民生委員、市の職員等も参加してくれている。また、地域行事への参加や吉野川市独自の五九郎祭り、菊人形へ参加する事で、吉野川市民である事への喜びが持てるよう支援している。	運営推進会議に市の職員、民生委員、地元消防団員が参加してくれている。阿波踊りや五九郎祭り、菊人形見物など、地域行事に参加し交流を図っている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医療機関での診察時には、職員が付き添いをして。外部の他科受診される時には、日々の状態を口頭や連絡箋にて手渡したり、必要に応じて通院介助を行っている。	本人様・家族様からの希望があったり、状態に応じて整形等の専門的医療を受けられるよう支援している。また、日々の状態を伝え、情報交換をしている。	本人様、家族様の希望に対し、主治医、家族様と相談しながら専門医療を受診している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化等に気付いた事があれば、のぞみ連絡箋を使用し、看護師に報告。適切な医療に繋げている。	身体的、精神的変化も見逃さないよう注意深く観察し早期発見、早期対応が出来るよう看護師と連携を図り、適切な医療が受けられるよう、のぞみ連絡箋を作成し、活用している。	本人様や家族様希望にそっての対応を行っている。体調不良時には、本人様の状態を細かく記載したのぞみ連絡箋を用い、医療との連携を図っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人様の支援方法に関する情報を医療機関に提供すると共に、家族様とも回復状況・情報等交換をしながら、対応可能な段階で、なるべく早く退院できるよう支援している。	入退所時、本人様支援に関する情報交換をする事により、医療関係者との連携を密に取れるようにしている。家族様とも回復状況等、情報交換をしている。	ソーシャルワーカーや併設病院、施設との情報交換をし、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院出来るようアプローチしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応については、契約時に説明し同意を得ている。また、入居者様・家族様からの意向はアセスメントに記載し意向確認の為の話し合いを医師・看護師・職員とが連携を図り、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	重度化した場合の対応については、契約時に説明し同意を得ている。また、利用者様・家族様からの意向はアセスメントに記載し意向確認の為の話し合いを医師・看護師・職員とが連携を図り、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。	重度化した場合の対応については、契約時に説明し同意を得ている。また、入居者様・家族様からの意向はアセスメントに記載し意向確認の為の話し合いを医師・看護師・職員とが連携を図り、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の病院内での勉強会や、外部での緊急時対応の研修に参加し実施力の向上に努めている。また、施設内でも勉強会を行い全ての職員で初期対応を想定した訓練を行っている。	併設の病院内での勉強会や、外部での緊急時対応の研修に参加し実施力の向上に努めている。また、施設内でも勉強会を行い全ての職員で初期対応を想定した訓練を行っている。	併設の病院内での勉強会や、外部での緊急時対応の研修に参加し実施力の向上に努めている。また、施設内でも勉強会を行い全ての職員で初期対応を想定した訓練を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署並びに併設施設の協力を得て、消火器の使い方や入居者様と共に避難訓練、避難経路の確認、施設内での地震発生を想定しての訓練も実施している。その他、地元消防団員に運営推進会議に参加してもらい協力体制をとっている。	消防署並びに併設施設の協力を得て、消火器の使い方や入居者様と共に避難訓練、避難経路の確認、施設内での地震発生を想定しての訓練も実施している。その他、地元消防団員に運営推進会議に参加してもらい協力体制をとっている。	消防署並びに併設施設の協力を得て、消火器の使い方や入居者様と共に避難訓練、避難経路の確認、施設内での地震発生を想定しての訓練も実施している。その他、地元消防団員に運営推進会議に参加してもらい協力体制をとっている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライバシーに配慮したさりげない声かけやケアを心掛けている。また、守秘義務について十分理解し責任ある取り扱いと管理を徹底している。	年長者として敬意を払い、言葉使いに気をつけたケアを心掛けている。また、守秘義務について責任ある取り扱いと管理を徹底している。	本人様の希望や状態に合わせ、さりげない言葉かけや対応が出来るように心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案し、入居者様が自己決定出来るようにしている。また、想いや希望を伝えられるようゆっくりと話をする時間を持ち傾聴している。	1人1人の状態に合わせ、様々な場面での自己決定がしやすいような働きかけを行っている。また、難聴の方には筆談にて曖昧な伝わり方にならないようにしている。	希望や相談ごとがあった際には、自室などにて1対1で話をする時間を持ちプライバシーの配慮に努めている。難聴の方にはジェスチャーを交えながらゆっくりと話すようにし、筆談を用い本人様の気持ちを探るように工夫している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の気分やペースを大切にされた対応を心掛けている。入浴や散歩等、毎日本人様と相談しながら行っている。	その日の会話を通して本人様の気持ちを尊重し、ニーズにあった個別性のある支援を行っている。	1人1人のペースで過ごせるよう心がけている。本人様の気分や好む時間に食事が摂れるよう配慮し、個別性のある支援を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの理美容で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう連携を図っている。また、本人の好むスタイル(帽子・スカーフ・化粧)にてお洒落を楽しんでいる。	更衣時には本人様の意向で決めてもらい、自己決定がしにくい方には職員がその日の気温などに合わせ、服を選んでもらえる様に支援している。	好みの装飾品などで身だしなみを整え、お洒落を楽しんでいる。また、入居者様同士で整容や衣服を整えたりと合う場面も見られている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には挨拶をされ全員でスタート出来るようにし、食後にはお膳を台所に運んでくれている。	お茶の準備、机拭きなど入居者様が自ら行っている。また、入居者様と職員が揃った所で「いただきます」と挨拶してから食べるようにしている。	飲み物の用意やご飯をついでもらうなど、手伝ってもらうことにより家事活動の意欲向上へと繋げている。また、食事を温めたり、好みの物を添え食事が楽しみなものになるように工夫している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせて、一日の食事摂取量を把握し、少ない際には嗜好品や食べやすいものなどで工夫している。	水分摂取、食事量チェック表を作成し確認している。飲み物を好まない方には様々な味のゼリーを作り勧めている。	本人様の体調や状態に合わせ医療との連携を図り、食事形態の検討をしている。また、食事量・水分量を日々チェックし把握している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。磨けてないところはスタッフが声かけや介助にて口腔内の清潔保持を行っている。また、歯科との連携を図り指導を受けている。	食後の口腔ケア時、うがいの水を飲みこむ方が居る為、白湯を用意しうがいを行っている。	毎食後、口腔ケアを行っている。口の周りの汚れもその都度拭き取り、清潔保持に努めている。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や言動等により、1人1人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を勧めている。また、失敗を少なく出来るよう時間を見て声かけ誘導も行っている。	排泄チェック表や言動等により、1人1人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を勧めている。また、失敗を少なく出来るよう時間を見て声かけ誘導も行っている。	排泄チェック表や言動などにより排泄リズムを把握し、トイレでの排泄の失敗を少なく出来るよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や便チェック表を用いて1人1人の排泄パターンを把握している。毎日の体操や水分補給を十分に行い便秘予防に取り組んでいる。又、緩下剤の使用指示がある方には、医療との連携を強化している。	便チェック表を元に個々の排泄パターンを把握し、散歩や体操を取り入れ、便秘予防に努めている。	毎日の体操や散歩を個々に合わせて行っている。また、便秘傾向の方には乳製品を用い便秘予防に取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に時間や曜日を決めず、入居者様のその日の希望を確認している。男性においてはお風呂内での髭剃りを楽しみにされている方もいる。	重度化している入居者様には二名介助を行うことで安心感を持って、入浴してもらっている。また、仲の良い入居者様同士が声を掛け合う事で気持ち良く入浴出来ている。	曜日や時間帯に関係なく本人様の体調や希望に合わせて入浴出来るようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や表情・希望等を考慮し休憩を勧めている。「寂しいけん一緒に」と不安が聞かれる時には、付き添いをし安心して眠れるようにしている。	季節や気温に応じて、個々に空調及び、寝具の調整を行っている。	本人様の意向にそって散歩に出かけるなどして夜間の安眠に繋がるよう工夫している。また、自室での休息も取り入れ自室で過ごしている際は、適度な訪室や希望に応じて自室ドアを開放するなどし安心感を持てるよう配慮している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量が変更になることがある為、本人様の状態観察をし経過の記録と共に協力医療機関との連携を図っている。	薬剤情報を保管し、新しく処方されたものや変更があった際には、申し送りを密に行い把握している。また、自分で服薬出来る人には手渡し自分で服用してもらっている。	薬剤情報を保管し、新しく処方されたものや変更があった際には、申し送りを密に行い把握している。また、日々の体調観察も注意して行っている。自分で服薬出来る人はしてもらい、自立心へと繋げている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の得意分野(食事前の挨拶・洗濯たたみ・花の水やり等)を活かしお願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また、花や野菜等の水やりを取り入れる事で成長を楽しませている。	毎日決まった時間になると、入居者様から声をかけてくれ、体操をしたり相撲、歌番組を鑑賞している。	得意分野で1人1人の力が発揮出来るよう支援している。活気づける言葉や感謝の言葉も伝え意欲向上へと繋げている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の飲食店に出掛けたり、家族様協力のもと散髪・外食・買い物等を楽しませている。	家族様の協力で、季節の行事に出掛けたりする事も計画して行っている。希望があれば近隣への散策や買い物等にも出かけている。又、季節の行事等も行えるよう計画し、家族様の理解と協力にて出かける事も出来ている。	花見や、ふじまつり等、季節の行事に参加出来るよう努めている。本人様や家族様の馴染みのある人との連携を図り外出出来るよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			1ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	4ユニット 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてお金を預かる際には、個別に馴染みのある財布を依頼し持って来てもらい買い物時に使用している。	本人様の希望により少額を自己管理している方もおり、売店、スーパーでの買い物時には、自分で支払いされている。預り金管理している方には、必要時に手渡し、自分で支払いが出来る様にしている。	預り金は馴染みのある財布を依頼し使用している。買い物時には自分で支払い出来るよう支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて手紙が出せるよう支援をしている。また、電話の希望がある際にも対応している。	家族様から電話があった際には、本人様に取り次いでいる。また、手紙が届いた際には本人様に手渡し、家族様との関係を維持出来るようにしている。	入居者様から電話希望があった際には周囲の環境にも配慮し、やり取り出来るようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓に遮光フィルムを貼っておりホール内が暗く感じやすい為、入り口付近の下駄箱の場所を変えたり天気の良い日には窓を開け光を取り入れている。また、季節感のある壁画を展示する事で明るく感じてもらえるような工夫をしている。	ホールには共有の日めくりカレンダーを設置し入居様がめくり、日付や曜日を確認している。廊下には、季節にあった入居者様の作品や、写真を展示している。	季節感を感じられるように季節に合わせた壁画を作成し、展示している。個人の馴染みのものを使用することで居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に座れるソファとなっている為、一人でくつろがれたり、仲の良い入居者様が来た際には話をしたりと憩いの場となっている。	個別に座れるソファとなっている為、一人でくつろがれたり、仲の良い入居者様が来た際には話をしたりと憩いの場となっている。	個別に座れるソファとなっている為、一人でくつろがれたり、仲の良い入居者様が来た際には話をしたりと憩いの場となっている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの布団や小物を利用し居心地の良い居室となっている。殺風景な居室となっている方も居るが本人様は落ち着く環境となっているように思われる。	本人様の使い慣れた家具、思い入れのある小物等を自室に置き、その人らしい空間を作っている。	馴染みのあるものを置いたり本人様の意向に合わせた居室になるよう工夫している。写真や作品などを飾り視覚でも楽しめるようにしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用箇所(お風呂場・トイレ)に分かりやすく表示や進行方向を貼り紙にて表示している。食器棚や冷蔵庫下段には入居者様の私物(食器等)置くようにし机上にはヤカンなどを準備し自ら使用出来るようにしている。	居室入口に造花等の小物をつけたりしている。また、トイレ、浴室には取り外し可能な札を掛けたり、進行方向の貼り紙など、工夫した表示をしている。	入居者様の私物や食器類は、食器棚の下段に置き取りやすいようにしている。机上にはヤカンを置き自ら使用出来るようにしている。